

テーマ：百貨店売上高（2010年1月）

発表日：2010年2月18日（木）

～前年比▲5.7%とマイナス幅拡大は小幅にとどまるも、先行きは楽観できず～

第一生命経済研究所 経済調査部

エコノミスト 中本 泰輔

TEL:03-5221-4789

○ 百貨店売上高は前年比▲5.7%

本日発表された1月の百貨店売上高（全国）は前年比▲5.7%（店舗調整後）となった。12月に行われたセールの前倒しの反動が出るとみられていたが、減少幅の拡大は小幅なものにとどまった。幾分強めの結果といえるだろう。日本百貨店協会によればマイナス幅が小幅にとどまった理由として、複数の店舗で閉店売り尽くしセール等の特殊要因があったことや、文化催事や物産展などのイベント施策が奏功し入店客数が下げ止まった店舗があったこと、外国人売上が3ヶ月連続で2桁の伸び（24.8%増／調査対象41店舗）となったこと、低迷を続けていた高額商材が前年並みに回復したこと（美術・宝飾・貴金属は同▲0.4%）、などが挙げられている。

もっとも、消費者マインド改善が頭打ちとなっていることや依然として厳しい雇用・所得環境が続いていること、デフレなど将来不安の強い状況が続いていることを背景として、消費者の節約・低価格志向は継続していると考えられる。そのため、身の回り品や化粧品など不要不急の商品や美術・宝飾・貴金属などの高額商品が回復基調に転じているとは考えにくい。前述のとおり、閉店セール等の特殊要因によって、売上高が一時的に押し上げられている可能性も考えられる。基調判断は2月の結果と合わせて判断するべきであろう。

商品別にみると、衣料品が前年比▲8.5%（12月：同▲6.8%）、食料品が同▲3.0%（12月：同▲2.7%）とマイナス幅が拡大した一方で、身の回り品が同▲4.3%（12月：同▲7.5%）、雑貨が同▲2.7%（12月：同▲5.3%）、家庭用品が同▲4.1%（12月：同▲5.0%）とマイナス幅が縮小した。

○ 先行き個人消費は減速感を強めていく可能性が高い

先日発表された09年10-12月期GDP1次速報では、個人消費は前期比+0.7%と3期連続で高い伸びとなった。もっとも、これまでの改善は、経済対策効果によって耐久財消費が大きく押し上げられてきたことによる要因が大きい。消費動向調査の「耐久消費財の買い時判断」の改善が頭打ちとなっていることなど懸念材料もあり、今後、追加的な押し上げ効果は弱まってくるリスクがある。前述のとおり個人消費を取り巻く環境は厳しい状況が続いていることから、個人消費は、先行き減速感を強めていくとみられる。

